

## 青年国際交流事業の効果測定・評価に関する検討会（第2回）議事要旨

1 日 時：平成24年7月19日（木）10：00～11：55

2 場 所：中央合同庁舎第4号館4階420会議室

3 出席者：

（委員） 牟田座長、赤尾委員、畷委員、竹尾委員、田中委員、塚田委員  
（内閣府） 中川内閣府特命担当大臣、園田内閣府大臣政務官、  
清水内閣府審議官、伊奈川子ども若者子育て施策総合推進室長、  
久津摩参事官（青年国際交流担当）、吉田参事官補佐  
（ヒアリング対象者）  
駐日タイ王国大使館公使参事官 パタラット・ホントング氏

4 概要：

（1）開会

○ 中川内閣府特命担当大臣 挨拶

今回は肯定的なお話をいただき心強い。事業レビューへの対応のためには、税の使い方をより効率的なものにしていく観点からの議論も必要。積極的なお知恵を頂きたい。タイトなスケジュールだが、協力願いたい。

（2）ヒアリング

○ 駐日タイ王国大使館、パタラット・ホントング参事官（第14回（1987年）「東南アジア青年の船」既参加者）

- ・ 東南アジア青年の船は、私に最も影響を与え、とても特別で、意義のある経験であった。外交官になり、20年くらい働いてきたすべての原点は、ここにある。国際的な友好精神を学び、自国について一層理解し、自分の精神や、能力、知識、コミュニケーションスキル等を向上させるとともに、地域の問題や国際的な問題について知る機会となった。
- ・ タイでは、東南アジア青年の船はとてもユニークで、特別で、価値のある交流プログラムと認識され、選抜試験を受ける若者がたくさんいる。このことは2、30年前から現在でも変わらない。タイ国政府も、このプログラムはとても有名で、意義のあるものだと考えている。
- ・ これまでの40年の実績から、人と人との本当のネットワーク、友好が築けるのがこのプログラムである。他にも様々な地域交流プログラムがあるが、東南アジア青年の船はそれらの基礎となるもの。このネットワークから、様々な共同活動が生まれている。船に参加した人だけではなくて、周りの人へとどんどん友好が広がっていくことを自分の経験からも体験した。

（3）事務局からの説明

資料3～6に基づき、効果測定の方法、各事業の目的とプログラムの概要等について説明した。

（4）意見交換

○ 事業の意義・効果について

- ・ 中国や韓国も青少年交流が重要だとして始めているときに、日本がやめたり、事業規模を縮小するのは、まさに逆行ではないか。

- ・ 各国首相との共同声明や他国との政治的な合意によって行われているものは、そのことの意味をもっと強く考えるべき。一方的に、こちらの金がなくなったからやめますというのでは、相手に対して失礼ではないか。
- ・ ヒアリングで話があったように、ハイ・コンペティティブで、そこで選ばれるということに対する、セルフエスティームみたいなどころがある。一般論の国際交流ではなく、政府がやり、これだけのエスタブリッシュメントされたものであるからこそ自信がついているということがわかるようにすればよいのではないか。
- ・ 各県で募集し、万遍なく来るシステムがあり、会ったことがない県の人たちと一挙に仲良くなれる。平等なコンペにした場合、首都圏や関西などの人が圧倒的に多くなる。日本の多様性も確保しているということは、内閣府なり、行政としてやっているということの強みではないか。
- ・ 学校や民間でもこのような事業をやっており、それとどこが違うのか、を言っていくべき。他の国が全然やっていなくて、日本だけがやっているとしたら、それは非常に大きな特色。
- ・ ヒアリングで話があったように、外国で事業が非常に意味を持っているということについて、各国の首脳らから手紙をもらうことが考えられるのではないか。

#### ○ 効果測定・評価について

- ・ 効果の費用との見合いを説明する場合、効果がお金で測定でき、費用よりも効果が高いと言えればよいが、お金で勘定は難しいということであれば、似たことをやっている他のプログラムと比べて、効果は同程度だが、コストはこちらの方が安い、少なくとも高くないということも考えられるのではないか。
- ・ コストのうち、どのぐらい国が負担すべきで、どれくらい個人に帰すべきかについて、アンケート又は既存資料により、可能な範囲で根拠を示す工夫について検討してはどうか。
- ・ 予算のないときに何でこれをやるのかについて答えるためには、何らかの工夫が必要。本流ではないが、社会貢献やボランティア活動について費用便益分析をすることも考えられる。
- ・ これまで40年の歴史があり、今やめたら、外交も含めてどういふマイナスのインパクトがあるかということも大きい。完全に同じことをやるのでなくても、今やめたら、せつかく今までのネットワークの蓄積、財産が台無しになってしまうということも大事ではないか。
- ・ 先進国と途上国、日本との関係も様々な国が混在しており、事業に参加する人は多様。期待度や効果、インパクトも違うし、ネットワークの形も違う。また、男性、女性による違い、エリートだけの研修期間ではないような側面、地域による違い、そういうことをもう少しきめ細かく浮かび上がらせるような工夫が、うまくできないか。
- ・ 事業が、地方の国際化ということにもつながっているというデータがあれば、そういうデータも入れて、ここでしかできない特色を中心に出したらどうか。地方の国際化は行政がやらなければならない。
- ・ 議論の整理や検討の方向としては、本日の議論の内容を盛り込んだうえで、基本的には、資料3～資料5でよいのではないか。

#### ○ 事業の見直しについて

- ・ フォローアップは非常に重要。年次総会に副大臣らに出ていただくとか、現地における既参加青年との交流をできるだけ支援していくことも考えられる。

- ・ 円高もあり、企業の海外が海外にどんどん進出。東南アジア進出企業の若手に参加してもらい、人数を増やすなり、経費を減らすなりするのも一案ではないか。
- ・ 今の国際情勢にかんがみて、21世紀に入って、時代も非常に大動乱の時代を迎えている中で、こういう付加価値をもう少しつけていきたいということも入れた方がいいと思う。

(6) 閉会

- ・ 次回は、7月30日(月)14:00に開催の予定。